

Title	三上正毅訳 ユートピア
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.4 (1914. 5) ,p.505(125)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140501-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

分配高を異にしてゐるがこの班田制度が破れて
莊園が甚多くなる時に於いては莊司は則ち大化
以前の田令に當るのだが莊司が其部民に對する
關係になれば事實上の土地の支配者がまた其所
有者となり、こゝに所有者間に争を生じ武家の
勃興を促す様になれば腕力の必要が起り武士な
る一種の階級制度は出來たにもせよ良民賤民の
區別は漸々なくなる様になつた。こゝに部民の
多くは郎等關係となり。古の民族關係は新なる
形の下に家の子としてあらはるのである。

從來の研究は莊園なる文字に拘泥し、班田制度
以後に莊園の起源を置くのは誤りである、寧ろ
班田制なる支那制度の輸入は無理であるから破
壞せられ起つたのは莊園である。けれども莊園
の性質から云へば其系統は當然大化革新以前の
土地制についてゐる。莊園専門の學者に此點に
注意がないのは我史界の現状である。

批評と紹介

松尾音次郎著 我國商工業之現在及將來

大正三年一月東京北文館發兌
菊版五五二頁定價金貳圓

著者松尾音次郎氏は農商務省囑託技師にして多年我商工業の實
情の取調に従事し頗る其趨勢に精通せり。氏は數年前官命を帶
びて南洋諸邦を歴遊し其産業の狀態を調査し、歸朝後其報告書
『南洋の産業及其富源』を公刊せしが、頗る好評を博し忽ち數版
を重ねたり。

本書も亦氏が農商務省の命を奉じて我國に於ける企業集中の現
狀を調査せる結果を公刊せるものに外ならず。著者は冒頭筆を
歐米諸國に於ける企業集中の趨勢に起し、次で我國の織維工業
界、製紙業界、製糖業界、人造肥料業界、洋燧口金製造業界、麥
酒釀造業界、燐寸工業界、麻絲紡績業界、石油界並に製絨業界
に於て企業集中若しくは聯合が漸次盛んならんとせるの狀態
を細説し、進んで企業合同又は聯合が現在及び將來に於ける
企業上の危險不利益を矯正豫防せんとするに起因せるものなる
の所以を説明せる後、更に轉じて企業集中の形式と企業聯合の

種類とを擧げ、且つ生産、物價、貿易、社會、政治等に及ぼす
企業集中の影響に論及し、最後に我國に於ける企業集中は未だ
歐米の夫れに及ばず従つて之を獎勵するを以て得策なりと斷じ
て種々の獎勵法を論述すると同時に、企業集中は動もすれば獨
占の弊害を誘致するの傾向あるものなるを指摘し、之に對して
國家の採る可き取締法を論じて巻を終り。

以上は本書内容の梗概なるが、本書の特徴と看做す可きものは
我國工業界に於ける企業合同並に聯合に關する精密なる研究
なりと謂つ可きか。著者は農商務省の職せる豊富なる調査資料
に基きて本書を起稿せるものなるを以て、記述例證の正確なる
は推して知る可し。殊に本書は官省又は當事者と何等の縁故を
有せざる者が其詳細を知ることを得ざる諸會社の聯合規約の條
文等を載せ、以て讀者の參考に資する所夥からず。企業集中の
理論的研究を載せたる良書は他になきに非ざれども、本書の如
く企業集中の實狀を正確精密に叙説せるは蓋し他に其類を見る
ことを得ざるべきか。されば、吾人は斯くの如き企業集中研究
の良參考書を得たるを慶賀し、本書が廣く江湖に行はるゝに至
らんことを切望す。(T)

三上正毅譯 ユートピア

大正二年十二月東京梨牛書院發兌
小版三一〇頁定價七十五錢

本書はサール、トーマス、モリア St. Thomas more の名著『ユート
ピア』(Utopia)の抄譯なり。原書はユートピア(ユートピアは希臘語に
して『何處にも存在せず』との意義を有す)と名づくる一理想國
に於ける幸福なる人民の生活狀態を描寫せるものにして、著者
は之に依りて其當時(ヘンリー八世の時代)に於ける英國の舊守
的社會生活を諷刺せんと試みたり。されど、モリアは本書を拉
典語にて著述せしを以て、本書を縮く者は僅かに拉典語を解す
る少數の歐洲人此種の著述に興味を有する者に過ぎざり然り
と雖も、モリアの死後ラルフ、ロビンソンなる者が之を英譯せ
し後、本書は漸く一般讀者の注意を惹くに至り、爾來社會主義
を奉ずる者に取って理想郷の模範を示すものと看做されたり三
上氏の抄譯せるは『ユートピア』の英譯なるが、之に對するセーリ
ス、アダム氏の評論をも併せて譯出して、讀者の參考に供せり。
即ち邦譯書は之を分ちて三章となし、第一章評傳にアダム氏の
評論を收め、第二章理想的國家の部に英譯書の第一卷を譯載し
第三章ユートピア見聞談の部に英譯書の第二卷を譯出せり。邦
譯は間々英譯書の字句を省略せる所ありと雖も、原著者の論點
を傳へて遺漏なきが如し。譯文明快流暢にして英譯書の文意を
正確に翻譯すると同時に、讀者をして其の譯文なるを忘却せし
むるの趣きあり。吾人は本書が三上氏の筆に成る他の譯書と同
じく廣く世に行はるゝに至る可きことを疑はず。(T)